

1 単元名

1 音読げきをしよう 「お手紙」

2 単元について

「お手紙」は、友達の不幸せをいっしょに悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。特別な事件が起こるわけでもなく、4日遅れの、しかも内容の分かっている「お手紙」を、仲良く待つ二人。友達どうしの心の交流は、読み手までも幸せな気持ちにさせる。登場人物の気持ちに寄り添い、共に悲しんだり喜んだりして物語の世界に浸ることができる教材である。

子どもたちはこれまで、「ふきのとう」の学習において、場面の様子について人物の様子や会話を中心に想像を広げながら読み、役に分かれて音読することを学んできた。また、「スイミー」の学習では、人物の行動や場面の様子の変化について想像を広げながら読み、場面ごとの様子が伝わるように音読した。

そこで、本単元ではこれまでの学習を生かし、場面の様子について登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、読み取った場面や人物の様子・気持ちについて自分の思いや考えをまとめ、伝え合うことができるようにする。これらの力を身に付けるために、単元の出口に「音読劇に表して楽しむ」言語活動を位置付ける。音読劇に表すために、子どもたちはがまくんやかえるくんになりきって音読したり動作化したりしながら、二人の様子や心情を豊かに想像しながら読み進めていく。また、「音読劇に表したい」という目的意識のもと、主体的に学習に取り組むことができると考える。

3 本時の指導にあたって

(1) 言語活動の充実を図る単元指導計画の工夫

「音読劇発表会をしよう」という目的意識のもと、登場人物を確認し、一つ一つの会話はだれのセリフなのかをはっきりさせてから、各場面での登場人物の心情を考えながら音読表現を工夫していく。毎時間、登場人物の心情を考えながら、工夫して音読表現する場面を位置付けていくことを工夫して指導計画を作成した。

(2) 根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫

がまくんとかえるくんの会話文に着目し、表現や動きを考えさせたり、挿絵をよく見させたりして、心情を感じ取らせていく。一人読みの中で、工夫して音読したいかえるくんとがまくんの様子や気持ちを想像させる。どの文(挿絵)から考えたのかをはっきりさせ、根拠をもとに自分の考えをもつことを大切にする。一人読みは慣れていないため、実態に合わせてやり方を段階的に指導していく。

(3) 考えを深め、広めるための交流の場や形態の工夫

線を引いたところを音読する際に、その台詞はどのような気持ちが表れているか、またその気持ちを表現するためにどんな動きを入れたらよいかを自分の台本に書き入れる。そして、読み取ったことをグループ交流し、アドバイスをし合ってよりよいものにしていく。

気持ちを深く読み取って表現するためにバージョンアップタイム(深めの発問)を設ける。本時では、「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」という台詞がある。これは、1場面の「ああ。いちども。」の「ああ。」は同じ言葉である。1場面の「ああ。」は悲しそうだが、3場面の「ああ。」は温かくて幸せな感じであることに気付かせ、どんな気持ちかを考えて音読することが大切であることに気付かせる。そして、各自の音読の工夫につなげていく。

4 単元指導計画

「お手紙」 (全12時間)

【単元の目標】

場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。【読】(1)ア・ウ・オ
手紙を書く楽しさを知り、物語の登場人物に言ってあげたいことを手紙に書くことができる。【書】(1)ア・イ
主語・述語の関係を理解することができる。【伝国】(1)イ(カ)

(1) 単元で身に付けたい力 単元の評価規準

【関】聞き手に伝わるように、役割読みや音読劇をしようとしている。

【読】・人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して音読している。

・自分の音読と友達の音読を聞き比べて、感想を深めている。

・友達と感想を交流することにより、自分の考えを広めたり、深めたりすることができる。

【書】手紙のよさを気付いて、自分の思いを手紙に書いている。

【言】主語と述語の関係を理解している。

(2) 指導計画

次/ 時	ねらい	主な学習活動と学習課題	「読み取りの技」と 着目させたい語句・叙述
1	<p>範読を聞いて感想をもち、単元を通した学習のめあてをもつことができる。</p>	<p>1. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんなお話かそうぞうしながら聞き、かんじたことを書いたり話したりしよう。</p> </div> <p>2. 教師の範読を聞く。大まかなあらすじをつかませる。</p> <p>3. 初発の感想を書く。</p> <p>4. 感想を交流する。</p> <p>5. これからの学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>がまくんとかえるくんのようすや気持ちを、音読げきにあらわしてたのしもう。</p> </div>	<p>A 心の中の言葉(内言) B 登場人物の会話 C 登場人物の行動</p> <p>・お手紙 ・アーノルド=ローベル ・登場人物 (がまくん・かえるくん) ・音読劇 ・会話文</p>
2	<p>音読劇発表会に向けて、どんな活動をするかよいかを考え、学習への意欲と見通しをもつことができる。</p>	<p>1. 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>『音読げきはっぴょう会』にむけて、学しゅうのけいかくを立てよう。</p> </div> <p>2. 音読劇発表会までの学習計画を話し合う。</p> <p>3. 場面分けをする。</p> <p>4. 全文を音読する。</p> <p>・かえるくんとがまくん、どちらの会話なのかをはっきりさせる。</p> <p>・読み方や意味の分からない言葉を確認する。</p>	<p>・場面 ・挿絵</p>
3	<p>お手紙を悲しみながらもずっと待つがまくんと、がまくんの悲しみに気付いて自分のことのように落ち込むかえるくんの様子や気持ちを読み取り、音読劇の表し方を工夫することができる。</p>	<p>1. 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お手紙をまつがまくんと、それを知ったかえるくんのようすや気持ちをそうぞうし、音読げきのしかたをくふうしよう。</p> </div> <p>2. 1場面を音読し、工夫して音読したいところの気持ちや動きを考える。(一人読み)</p> <p>3. 音読劇の工夫を交流する。 がまくんになって、「ああ、いちども。」を読もう。</p> <p>4. まとめの音読をする。</p> <p>5. 振り返る。</p>	<p>・かなしい(B) ・ふしあわせ(B) ・ああ(B) ・お手紙なんか(B) ・空っぽさ(B) ・ふたりともかなしい気分で(A)</p>

4	かえるくんの行動に着目することを通して、がまくんを喜ばせるために、大急ぎで手紙を書いてかたつむりくんに渡すかえるくんの様子や気持ちを読み取り、音読劇の表し方を工夫することができる。	<p>1. 前時の場面を振り返り、課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>がまくんにお手紙を書くかえるくんのようすや気持ちをそうぞうし、音読げきのしかたをくふうしよう。</p> </div> <p>2. 2 場面を音読し、工夫して音読したいところの気持ちや動きを考える。 (一人読み)</p> <p>3. 音読劇の工夫を交流する。 がまくんのために、かえるくんはどんな気持ちで手紙を書いたのかな。</p> <p>4. まとめの音読をする。</p> <p>5. 振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大いそぎで (C) ・帰りました (C) ・見つけました (C) ・書きました (C) ・入れました (C) ・書きました (C) ・とび出しました (C)
5	二人の挿絵や会話文に着目することを通して、手紙を待つよう励ますかえるくんと、すねて投げやりになっているがまくんの対照的な様子に気付き、音読劇での表し方を工夫することができる。	<p>1. 前時の場面を振り返り、課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お昼ねをするがまくんと、手紙をまつかえるくんのようすや気持ちをそうぞうし、音読げきのしかたをくふうしよう。</p> </div> <p>2. 3 場面 を音読し、工夫して音読したいところの気持ちや動きを考える。 (一人読み)</p> <p>3. 音読劇の工夫を交流する。 がまくんが「ばからしいこと」と言った理由を考えよう。 かえるくんになりきって、まどの外を見てみよう。</p> <p>4. まとめの音読をする。</p> <p>5. 振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もうちょっと (B) ・あきあき (B) ・ひょっとして (B) ・そんなこと、あるものかい ・でもね (B) (B) ・きょうは (B) ・かもしれないよ (B) ・ばからしいこと (B) ・きょうだって (B)
6 本時	がまくんとかえるくんの会話文に着目することを通して、がまくんにお手紙を待ってもらうために思わず自分が手紙を出したことを打ち明けてしまうかえるくんと、手紙の内容に喜ぶがまくんの様子や気持ちを想像し、とても喜んでいるがまくんの気持ちが分かるように音読劇の表し方を工夫することができる。	<p>1. 前時の場面を振り返り、課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お手紙をまちつづけるかえるくんと、お手紙の話聞いたがまくんのようすや気持ちをそうぞうし、音読げきのしかたをくふうしよう。</p> </div> <p>2. 3 場面 を音読し、工夫して音読したいところの気持ちや動きを考える。 (一人読み)</p> <p>3. 音読劇の工夫を交流する。</p> <p>4. 「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と1場面の「ああ。いちども。」の「ああ。」の読み方の違いを考えよう。</p> <p>5. まとめの音読をする。</p> <p>6. 振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きっと来るよ (B) ・だって (B) ・「きみが。」(B) ・親愛なる (B) ・親友 (B) ・「ああ。」(B) ・「とてもいいお手紙だ。」(B)
7	挿絵や二人のしたことの描写に着目することを通して、幸せな気持ちで手紙を待つがまくんとかえるくんの様子や気持ちを読み取り、音読劇の表し方を工夫することができる。	<p>1. 前時の場面を振り返り、課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お手紙が来るのをまつがまくんとかえるくんのようすや気持ちをそうぞうし、音読げきのしかたをくふうしよう。</p> </div> <p>2. 4 場面を音読し、工夫して音読したいところの気持ちや動きを考える。 (一人読み)</p> <p>3. 音読劇の工夫を交流する。 1 場面の挿絵とくらべて、二人の様子はどんなところがちがうか、見つけよう。</p> <p>4. まとめの音読をする。</p> <p>5. 振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふたりとも (C) ・とてもしあわせな気持ちで (A) ・長いこと (C) ・4日たって (C)

8 ・ 9	自分が選んだ場面のがまくんとかえるくんの様子や気持ちが表れるように、音読の仕方や動き、表情を工夫して、音読劇の表し方を考えることができる。	1. 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">がまくんやかえるくんになりきって、音読げきのれんしゅうをしよう。</div> 2. 音読の工夫や動き方を考える。 3. グループ（がまくん・かえるくん・他の文）で音読劇の練習をする。 ・～グループの音読劇を見て「なりきっているなあ」と思うところや、「もっとこうするとよい」と思うことを見つける。 4. まとめの音読劇をする。	・様子 ・気持ち ・なりきって
10	登場人物になりきって、音読劇を発表したり聞いたりすることができる。	1. 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">がまくんやかえるくんになりきって、音読げきはっぴょう会をしよう。</div> 2. 音読劇発表会をする。 3. 感想を交流する。	・なりきって
11	受け取った人がうれしくなるような内容や書きぶりを考え、手紙を書くことができる。	1. 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">がまくんやかえるくん、かたつむりくんがうれしくなるお手紙を書こう。</div> 2. 音読劇発表会をする。 3. 感想を交流する。	・うれしくなる手紙 ・はじめ ・なか ・おわり
12	同じシリーズの本から好きな本を選び、面白い所を見つけながら読むことができる。	1. 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">がまくんやかえるくんシリーズのほかのお話を読んで、楽しもう。</div> 2. 好きな本を選んで読書する。 3. グループで、おもしろかったところを紹介し合う。	・ようす ・気持ち ・会話文 ・したこと

(3) 単元を貫く言語活動 音読げきをしよう

単元の課題「場面の様子や違いに注意しながら、音読を工夫し、発表することができる。」

目的意識 場面の様子を伝えるために

相手意識 クラスの仲間に

場面・状況意識 音読発表会で発表する

方法意識 音読を工夫して

評価意識 想像を広げ、読み取ったことを元に、様子がわかるように音読をすることができたか

5 本時のねらい

がまくんとかえるくんの会話文に着目しながら読む活動を通して、がまくんにお手紙を待ってもらうために思わず自分が手紙を出したことを打ち明けてしまうかえるくんと、手紙の内容に喜ぶがまくんの様子や気持ちを想像し、とても喜んでいるがまくんの気持ちがわかるように音読劇の表し方を工夫することができる。

6 本時の展開 (6 / 1 2)

学習活動と児童の姿		願う児童の姿を具現するための指導・援助 根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫：ア 考えを深め、広めるための交流の場や形態の工夫：イ		
つかむ	1 前時の場面を振り返る。 ・手紙を待つのが嫌になり、すねて投げやりになっているがまくんの様子を思い出す。 ・早く手紙が届いてほしい、あきらめないで手紙を待つようがまくんを励ますかえるくんの様子を思い出す。 2 かえるくんとがまくんのしたことを確かめ、課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> お手紙をまちつづけるかえるくんと、お手紙の話を聞いたがまくんのようすや気持ちをそうぞうし、音読げきのしかたをくふうしよう。 </div>	ア 挿絵としたことの描写から、前時の学習の振り返りをする。		
/	3 役割音読をする。 4 工夫して音読したいところのがまくんとかえるくんの様子や気持ちを想像する。(一人読み) 5 グループで交流する。	ア 一人読みでは、会話文や挿絵からがまくんとかえるくんの気持ちや動きを考えさせる。		
考える	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> がまくん 「でも、来やしないよ。」 ・来ないよ。また、いつもと同じだよ。(怒っているように) ・どうしてそんなに窓の外ばかりみているんだい。(不思議そうに) 「きみが。」 「お手紙になんて書いたの。」 ・どうして。(驚いたように) ・ぼくのために書いてくれたの。 ・早く内容を知りたいよ。(楽しみというように) ・本当に書いてくれたの。 「ああ。」 「とても いいお手紙だ。」 ・かえるくんが大切な友だちと思っていてくれている。(うれしいなというように) ・「親友」なんてうれしよ。 ・とても感動したよ。 ・ぼくには、「親友」がいるんだ。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> かえるくん 「きっと来るよ。」 ・絶対来るよ。(きっぱりと) ・かたつむりくんは「すぐやる。」と言ったのに遅いな。 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 ・ぼくが書いたから来るに決まっている。「しまった。言ってしまった。」というように) 「親愛なる」 「きみの親友」 ・本当に大切な友だちだよ。「ずっと、友だちだよ。」という気持ちで。 ・書いてよかった。 </td> </tr> </table>	がまくん 「でも、来やしないよ。」 ・来ないよ。また、いつもと同じだよ。(怒っているように) ・どうしてそんなに窓の外ばかりみているんだい。(不思議そうに) 「きみが。」 「お手紙になんて書いたの。」 ・どうして。(驚いたように) ・ぼくのために書いてくれたの。 ・早く内容を知りたいよ。(楽しみというように) ・本当に書いてくれたの。 「ああ。」 「とても いいお手紙だ。」 ・かえるくんが大切な友だちと思っていてくれている。(うれしいなというように) ・「親友」なんてうれしよ。 ・とても感動したよ。 ・ぼくには、「親友」がいるんだ。	かえるくん 「きっと来るよ。」 ・絶対来るよ。(きっぱりと) ・かたつむりくんは「すぐやる。」と言ったのに遅いな。 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 ・ぼくが書いたから来るに決まっている。「しまった。言ってしまった。」というように) 「親愛なる」 「きみの親友」 ・本当に大切な友だちだよ。「ずっと、友だちだよ。」という気持ちで。 ・書いてよかった。	イ がまくんやかえる君の気持ちを交流し、気持ちがよく表せるような読み方や動作を工夫する。 イ お互いのよさを認め合い、アドバイスをすることで、より様子が伝わるように音読できるようにする。
がまくん 「でも、来やしないよ。」 ・来ないよ。また、いつもと同じだよ。(怒っているように) ・どうしてそんなに窓の外ばかりみているんだい。(不思議そうに) 「きみが。」 「お手紙になんて書いたの。」 ・どうして。(驚いたように) ・ぼくのために書いてくれたの。 ・早く内容を知りたいよ。(楽しみというように) ・本当に書いてくれたの。 「ああ。」 「とても いいお手紙だ。」 ・かえるくんが大切な友だちと思っていてくれている。(うれしいなというように) ・「親友」なんてうれしよ。 ・とても感動したよ。 ・ぼくには、「親友」がいるんだ。	かえるくん 「きっと来るよ。」 ・絶対来るよ。(きっぱりと) ・かたつむりくんは「すぐやる。」と言ったのに遅いな。 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 ・ぼくが書いたから来るに決まっている。「しまった。言ってしまった。」というように) 「親愛なる」 「きみの親友」 ・本当に大切な友だちだよ。「ずっと、友だちだよ。」という気持ちで。 ・書いてよかった。			
深める	6 深めの発問 「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」と1場面の「ああ。いちども。」の「ああ。」の読み方の違いを考えよう。 ・1場面の「ああ。」は悲しそうだから低い声で言うといけれど、3場面の方は、温かくて幸せな感じだから明るい声で最後を上げるといいよ。 ・目をうるうるさせて手を合わせると、感動している気持ちを表すことができる。 7 もう一度、グループごとに音読の仕方を話し合い、見直す。 ・がまくんの「きみが。」を、もっとはっきり後ろを上げて言うと、すごく驚いた感じが分かる。そして、目を大きく開けて、かえるくんの方を指していうと驚いた感じがもっと伝わる。 ・かえるくんの「きっと来るよ。」は、もっと力を入れて大きな声で言おう。 8 まとめの音読をする。 9 振り返る。	イ 同じ言葉でも読み方が違うと、違った感じになることに気付くことによって、自分たちの音読の工夫につなげる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 評価規準 【読む能力】 お手紙をあきらめずに待つてほしいかえるくんと、お手紙の内容を知って喜んでいるがまくんの様子や気持ちを想像し、音読や動きで表現している。(ワークシート・発言・音読) </div> 登場人物の会話や言動を表している文章表現を基に、その心情や状況を想像することができる。「認識力」		
まとめる				